

# 令和4年度 性の多様性に関するアンケート報告書

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

- (1) 第4次伊那市男女共同参画計画に基づく施策の推進状況の把握と、今後の施策推進の資料とするため。
- (2) 性の多様性に関する取組の基礎資料とするため。

### 2 調査対象

令和4年8月1日現在、伊那市に在住する20歳以上の男女各500名（計1,000人）を年代別均等に無作為抽出

### 3 調査期間

令和4年8月10日から令和4年9月16日

### 4 調査方法

郵送による配布・回収

### 5 回収状況

| 配布数    | 有効回収数 | 有効回収率 |
|--------|-------|-------|
| 1,000通 | 417通  | 41.7% |

### 6 調査結果の表示方法

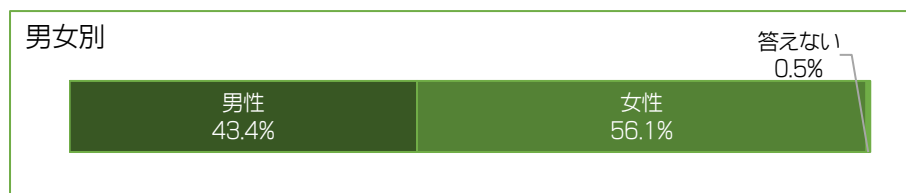
- 回答率（割合（%））は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表記しました。このため、回答率の合計が100にならない場合があります。
- 複数回答方式（マルチ回答）の設問では、回答率（割合（%））は回答者総数に対する回答数の割合を示しています。したがって、回答率の合計は100になりません。同様に、回答数の合計は回答者総数とは一致しません。

※本アンケートは、「令和4年度男女共同参画に関するアンケート」と併せて実施しました。

## 回答者の属性

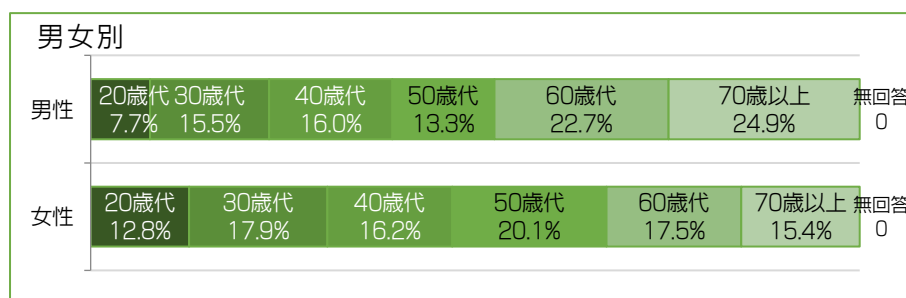
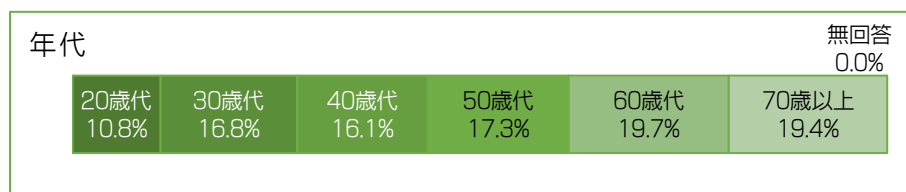
【性別】（戸籍上の区分とは別に、自身の主観により記入）

|      | 回答数 |
|------|-----|
| 男性   | 181 |
| 女性   | 234 |
| その他  | 0   |
| 答えない | 2   |
| 計    | 417 |



【年代】

|        | 回答数 |
|--------|-----|
| 20 歳代  | 45  |
| 30 歳代  | 70  |
| 40 歳代  | 67  |
| 50 歳代  | 72  |
| 60 歳代  | 82  |
| 70 歳以上 | 81  |



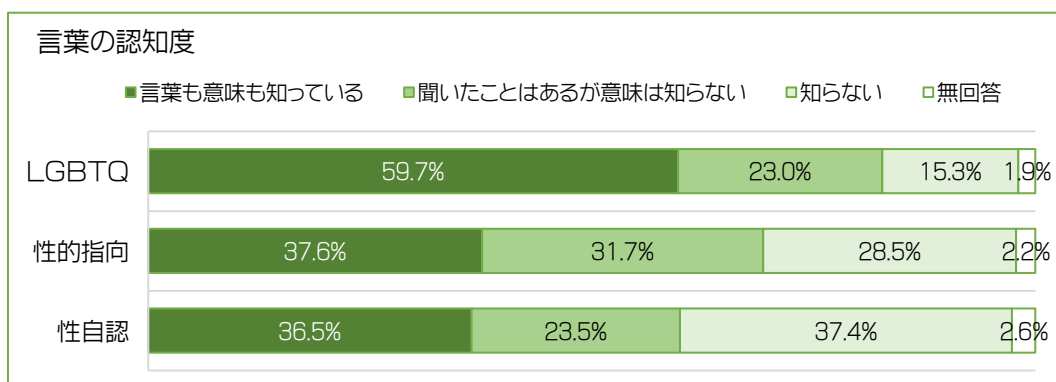
※「令和4年度男女共同参画に関するアンケート」に併せて実施しており、他の属性については、上記アンケートに同じため省略しています。

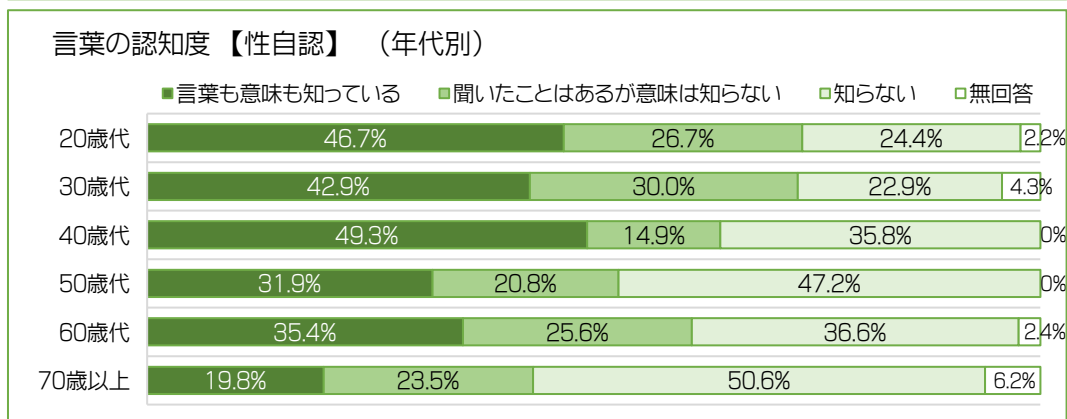
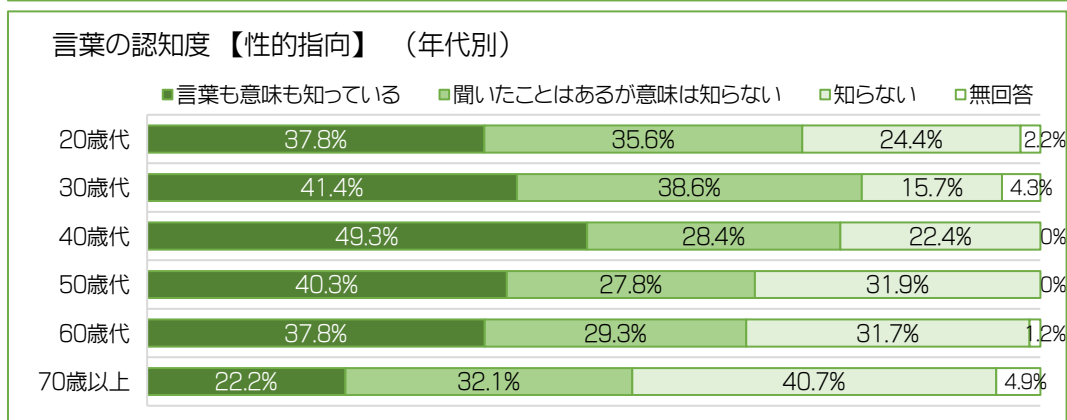
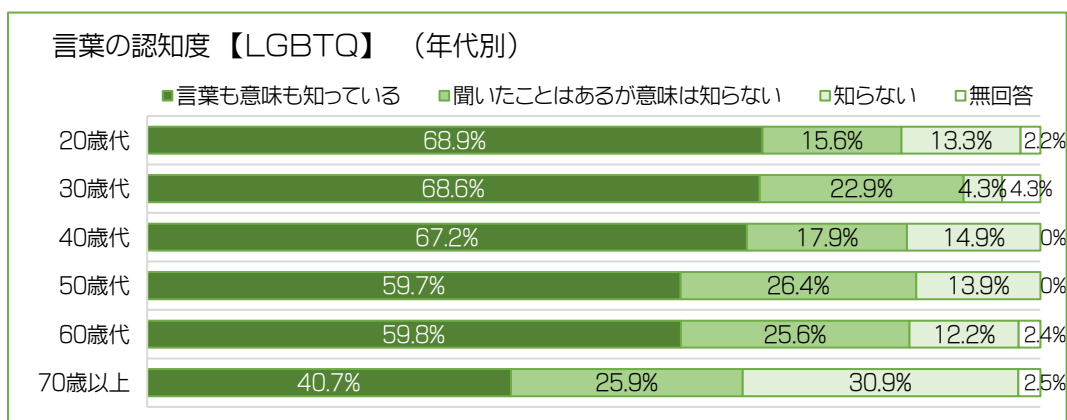
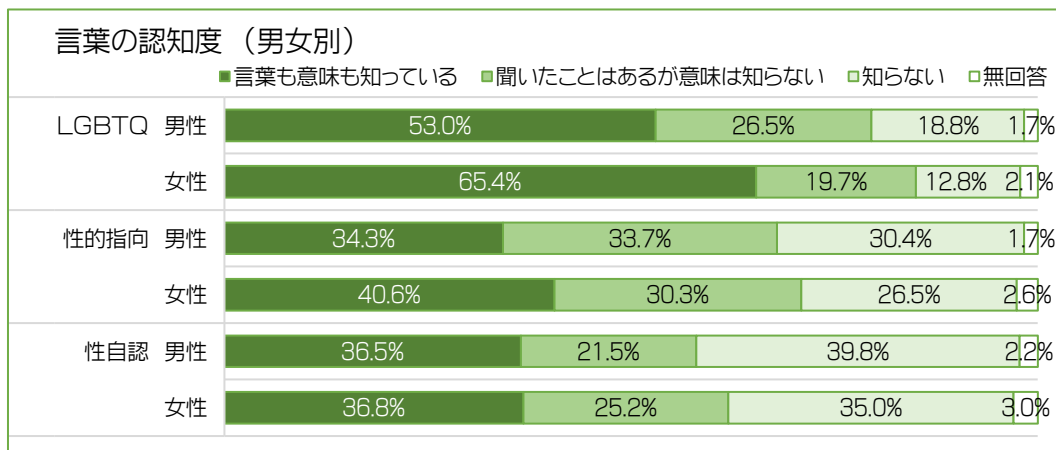
## 言葉の認知度

問1 あなたは次の言葉を知っているか、または聞いたことがありますか。

(回答数)

|       | 言葉も意味も知っている | 聞いたことはあるが意味は知らない | 知らない | 無回答 |
|-------|-------------|------------------|------|-----|
| LGBTQ | 249         | 96               | 64   | 8   |
| 性的指向  | 157         | 132              | 119  | 9   |
| 性自認   | 152         | 98               | 156  | 11  |



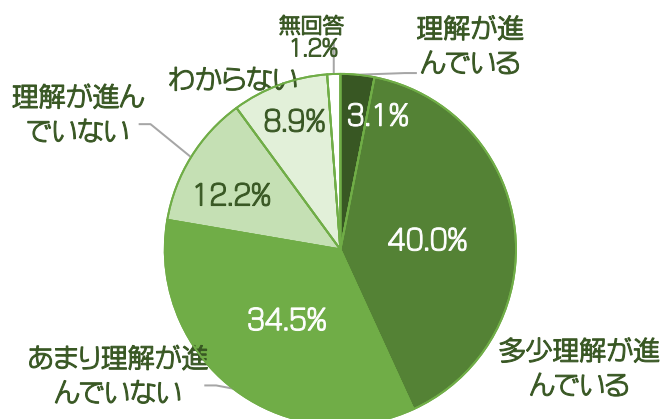


「LGBTQ」については「言葉も意味も知っている」の割合が約6割であるのに対し、ほかの言葉は4割に届きません。特に「性自認」について「知らない」は、50歳代では47.2%、20歳代では24.4%で、22.8ポイントの差があります。また、全ての言葉で男性より女性の方が認知度が高くなっています。

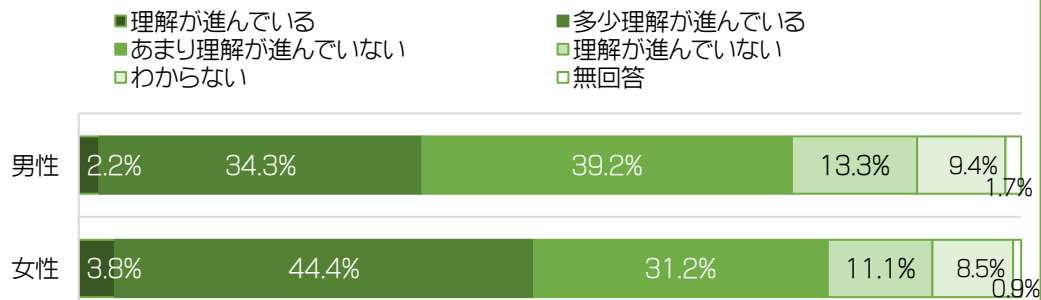
## 性の多様性への理解

問2 社会全体における性の多様性への理解が進んでいると思いますか。

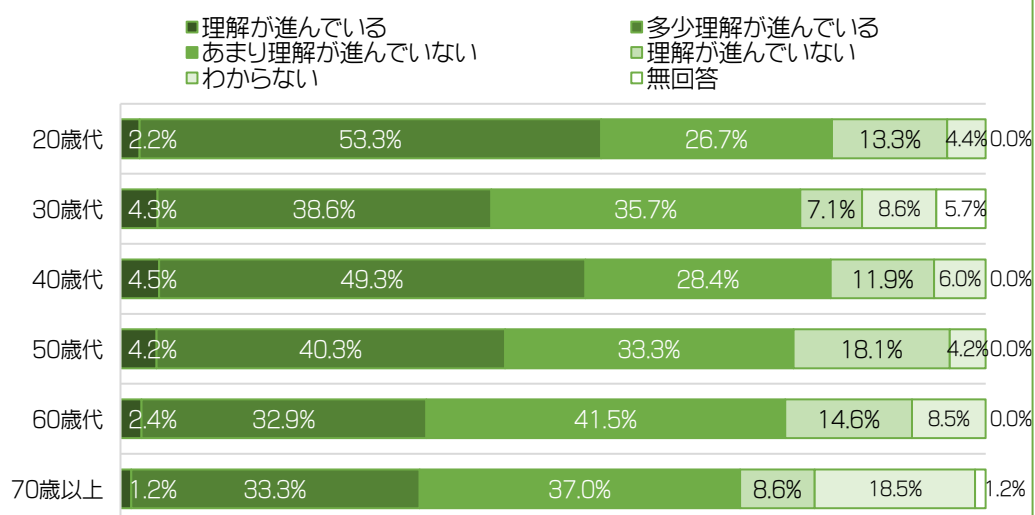
|              | 回答数 |
|--------------|-----|
| 理解が進んでいる     | 13  |
| 多少理解が進んでいる   | 167 |
| あまり理解が進んでいない | 144 |
| 理解が進んでいない    | 51  |
| わからない        | 37  |
| 無回答          | 5   |



性の多様性への理解（男女別）



性の多様性への理解（年代別）

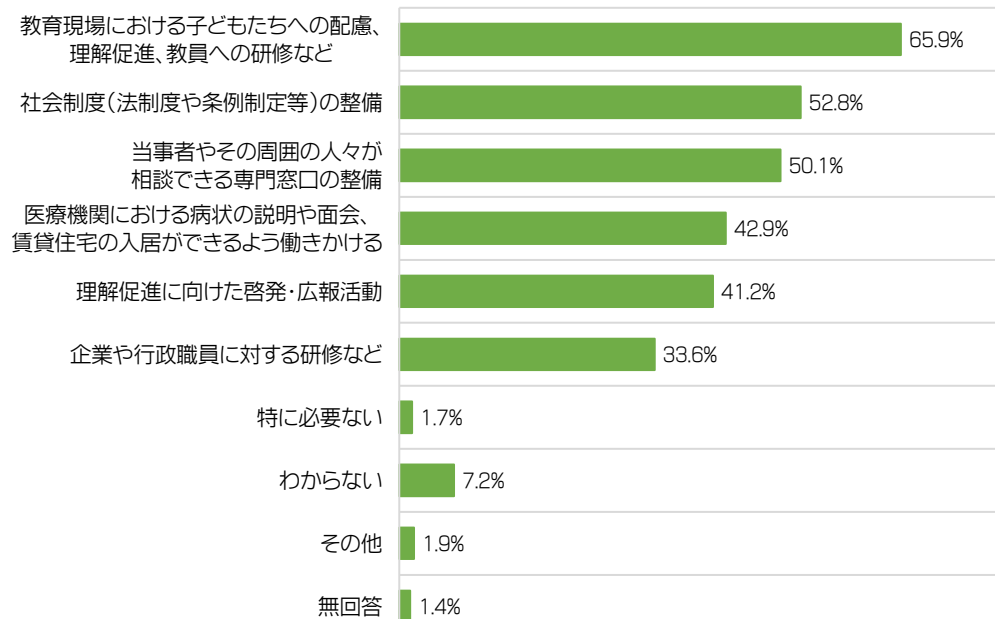


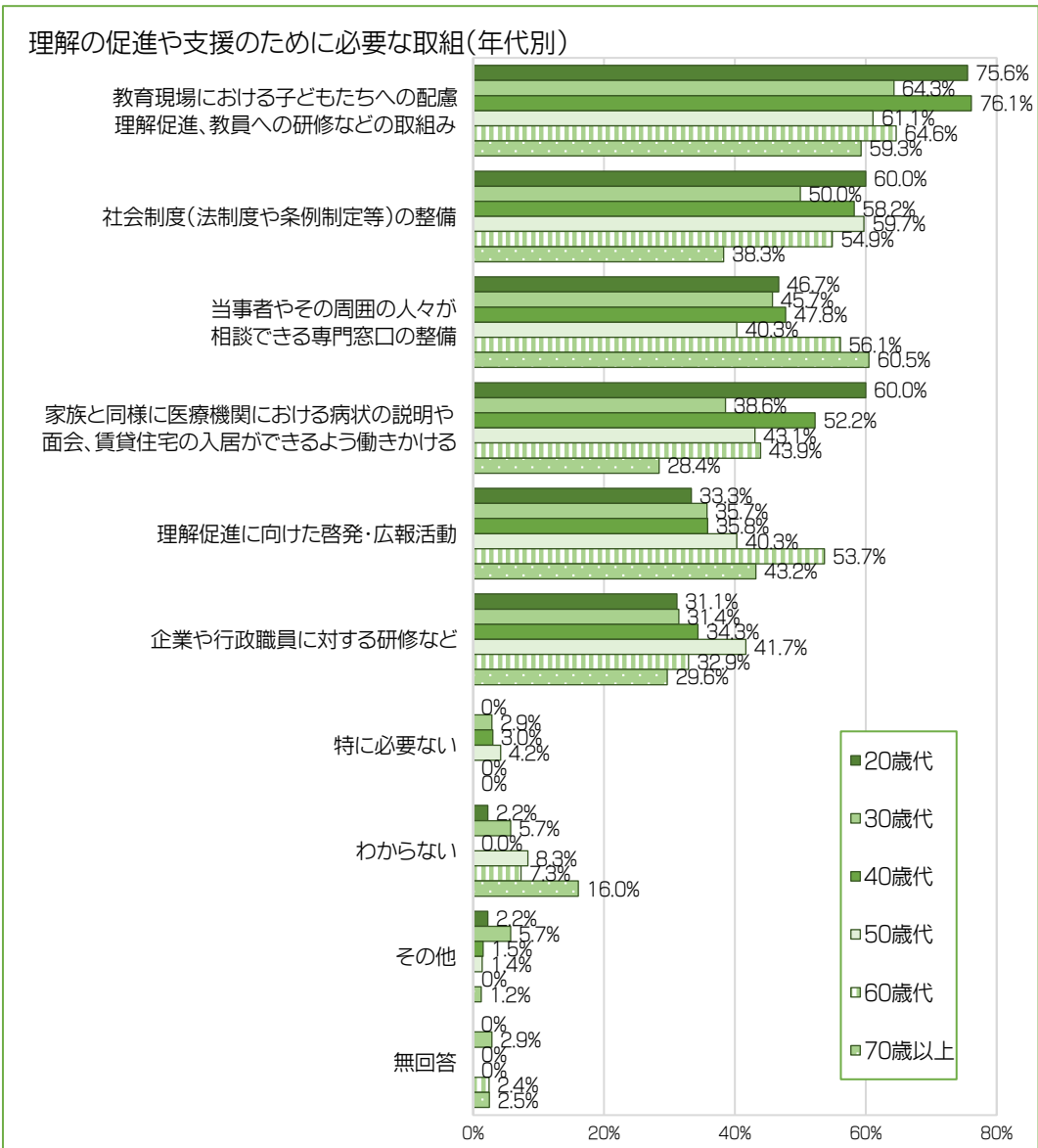
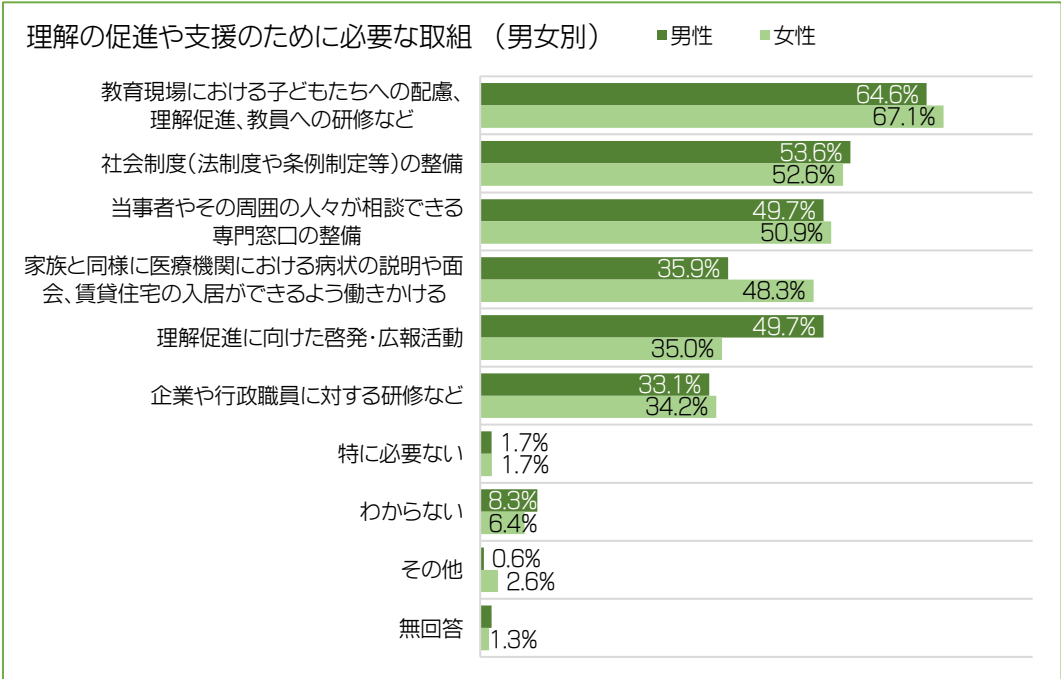
男女差はあまり見られません。年代別では、20歳代、40歳代では「多少理解が進んでいる」が最も多く、年代が上がるにつれ「わからない」の割合が上昇しています。

問3 性の多様性に対する理解の促進や支援のために、どのような取組が必要だと思いますか。(複数回答可)

|   | 回答数 |
|---|-----|
| 教育現場における子どもたちへの配慮、理解促進、教員への研修など                             | 275 |
| 社会制度（法制度や条例制定等）の整備  | 220 |
| 当事者やその周囲の人々が相談できる専門窓口の整備                                    | 209 |
| 同性または性的少数者のパートナーが、家族と同様に医療機関における病状の説明や面会、賃貸住宅の入居ができるよう働きかける | 179 |
| 性の多様性に関する理解促進に向けた啓発・広報活動の推進                                 | 172 |
| 企業や行政職員に対する研修などの取り組み  | 140 |
| 特に必要ない  | 7   |
| わからない   | 30  |
| その他   | 8   |
| 無回答   | 6   |

理解の促進や支援のために必要な取組(複数回答)



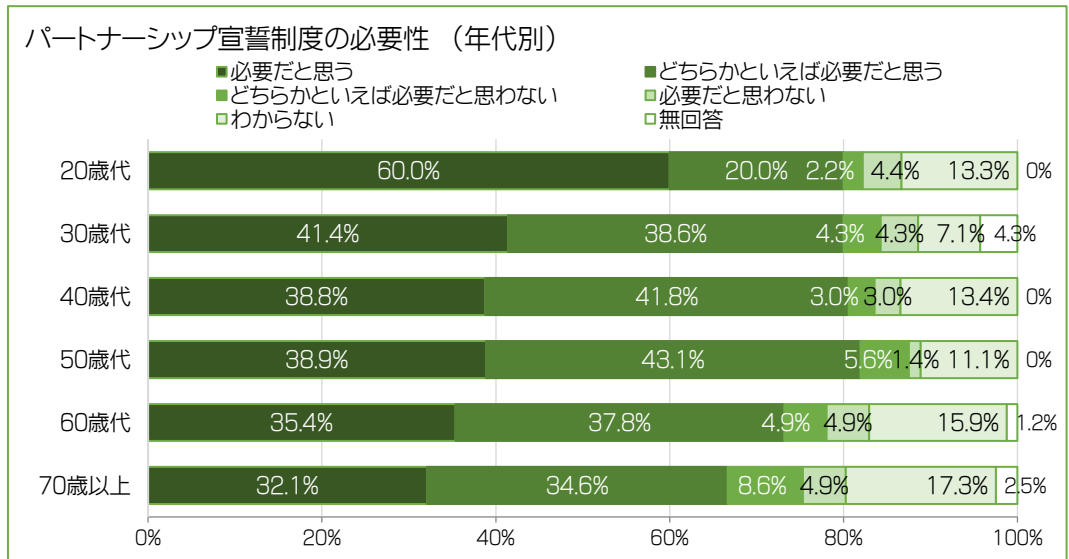
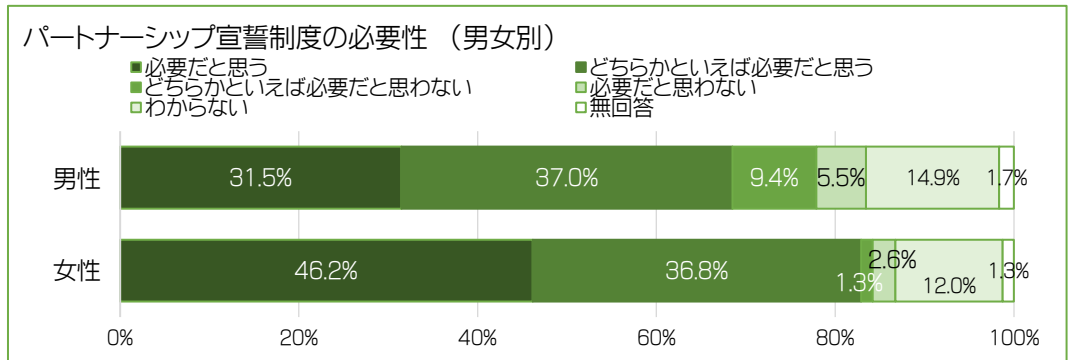
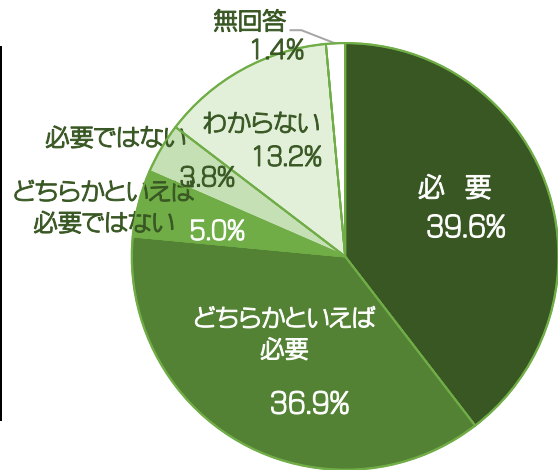


「教育現場における子どもたちへの配慮、理解促進、教員への研修」が男女年代別を問わず高い割合を占めています。

## パートナーシップ宣誓制度について

問4 「パートナーシップ宣誓制度（※）」について、あなたは必要だと思いますか。

|                  | 回答数 |
|------------------|-----|
| 必要だと思う           | 165 |
| どちらかといえば必要だと思う   | 154 |
| どちらかといえば必要だと思わない | 21  |
| 必要だと思わない         | 16  |
| わからない            | 55  |
| 無回答              | 6   |



（※）パートナーシップ宣誓制度とは…自治体が同性カップルなどに対して、お互いを人生のパートナーとすることを宣誓した事実を証明する制度です。法的な効力（相続、税金の控除等）を生じさせるものではありませんが、様々なサービスや社会的配慮を受けやすくするものです。長野県内では、松本市、駒ヶ根市、長野市（令和5年1月現在）で制定されています。

「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」を合わせて（＝必要だと思う）みると、全体では76.5%であり、また、男女別、年代別の全ての区分で65%を超えています。